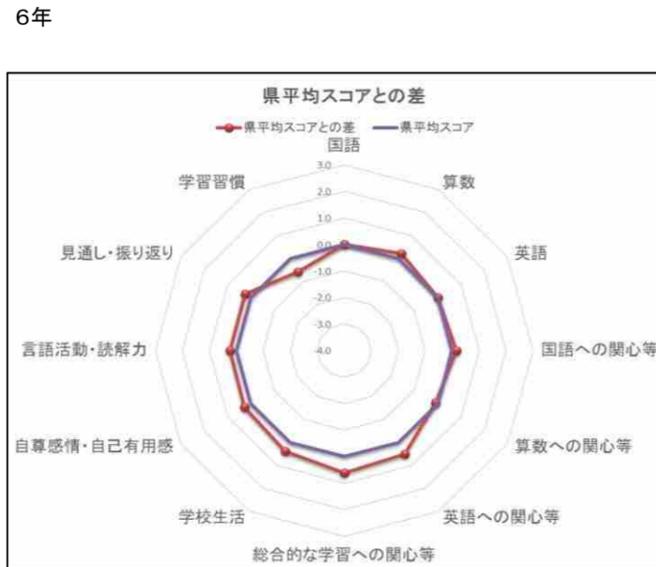
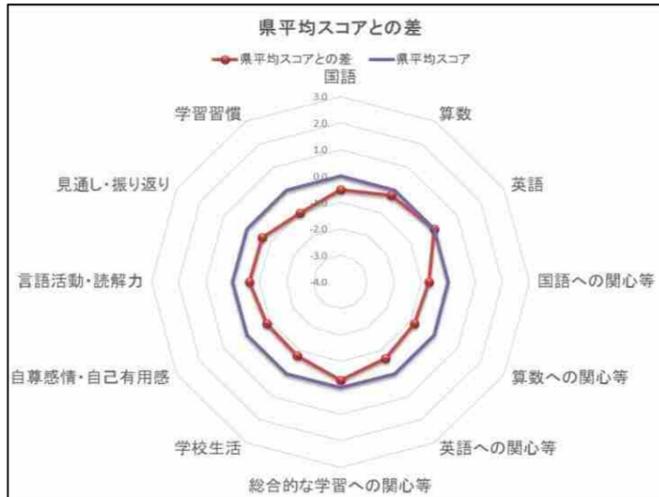


平成30年度 島根県学力調査結果及び分析・対策(松江市立持田小学校)

(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
5年	国語	○漢字はある程度定着している。 ●長文を読むことに慣れておらず、問われていることが適切に把握できていない。 ●言語事項(ローマ字、文法など)が定着していない。	・取りかかりやすい文を読み、要旨を捉えたり、題をつけたりするような活動を取り入れる。 ・言語事項については、ミニプリントなどで繰り返し学習する機会をもつ。
	算数	○四則の基礎的な計算は概ねできているが、ひねった問題になると不十分。 ●説明することが苦手で、無回答率も高いことから、じっくり考えず、すぐにあきらめてしまう傾向がある。 ●問題文を理解する力が弱い。「何が聞かれているか」を理解しておらず、数の拾い読みになっている。	・家庭学習などで復習問題を行う。 ・授業中、「自力で考える時間」を確保する。 ・関係図や線分図などを記入しながら、「何が聞かれているか」「そのためには、どんな式を立てればよいか」を初めに押さえていく。
6年	国語	○問題文が短く、題意をつかみやすい問題の正答率が高い。 ●問題文が長かったり、複数の問題文を関連させて解答したりしなければならない問題の正答率が低い。そのため、問われていることが何かかわかっていない傾向がある。	・読書を推奨したり、教材文の語句調べを行ったりして文章の内容を理解したり、イメージしたりできるようにする。 ・与えられた条件のもとで適切な文章を書くことができるように、授業の中でも文章を書く観点や字数制限を設け、その条件の元で文章を書くことができる活動を行う。
	算数	○全国学力調査に比べて、無回答の割合が減ってきている。 ●文章と図、グラフが入り混じった割合の問題に対して、見直しをもって、筋道を立てて考えていく力が弱い。 ●四則計算の順序を理解していない割合が多い。	・計算問題だけでなく、筋道を立てて考える問題を家庭学習でも取り入れていく。 ・割合の意味を考えながら問題を解いていく習慣を授業でも身につけさせていく。

(2) 各学年・各教科の調査結果チャート



(参考) 平均正答率

		国語	算数
5年生	本校	54	50
	松江市	63	55
	島根県	63	55

受検者数
5年生 55人

(参考) 平均正答率

		国語	算数
6年生	本校	67	64
	松江市	69	60
	島根県	67	59

受検者数
6年生 51人

各スコアの範囲は-4から+3までで、島根県のスコアは基準値の0となっています。スコアが0より大きければ大きいほど、島根県よりも「当該教科で平均正答率が高かった」、あるいは「当該カテゴリで肯定的回答が多かった」という結果になります。

(3) 生活・学習に関する意識調査から見られた傾向

平成31年2月15日

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
5年	授業改善に関わる事項	○毎日、楽しく学校に通っており、自己肯定感も高い。 ○総合的な学習の時間に意欲的に取り組んでいる。 ●国語、算数、外国語が好きだという割合が低い。 ●主体的に取り組む、自分の意見を発表する学習が苦手。 ●図書館を利用したり、読書をしたりが好きな子の割合が低い。	・学習に対して興味や関心が湧き、継続して追究できるような課題を設定していく。 ・思いや考えをもつ場を設定し、意見の深まりや課題追究の達成感が味わえるような評価を行うとともに振り返りを大切にする。 ・図書館を活用する単元を学期に1回は設定し、本に親しみがもてるようにする。
	家庭学習に関わる事項	○家の人と学校の話をよくする子の割合が高い。 ○宿題をきちんとやっていて、教師との信頼関係もできている。 ●宿題以外、主体的に学習に取り組む子の割合が低い。 ●課題に対して、自分から取り組もうとする意欲が低い。	・教師の指示は通っているので、宿題以外の主体的に取り組める自主学習を推進し、やる気が高まるような評価や工夫をしていく。 ・子どもの主体的な学習に対して、家庭に協力を求め、そのがんばりを賞賛してもらえるよう呼びかけていく。
6年	授業改善に関わる事項	○人と好んで話をし、うまく伝わるよう工夫している。 ○外国語活動が好きであり、内容の理解も伴っている。 ●学校図書館を活用した授業に対して、良い印象をもっている子の割合が低い。	・話の組み立てがより身につくよう、話し合いの機会を増やしていく。 ・外国語活動のように活動しながら楽しく学ぶことによって内容の理解ができていけるようなので、他教科においても、活動を取り入れながら学んでいく機会を増やしていく。 ・学校図書館については、他校の情報も収集しながら、使い方や楽しみ方などの指導ができるような体制を作っていく。
	家庭学習に関わる事項	●予習、復習にあまり取り組んでいない。 ●家庭で読書に取り組んでいる子が少ない。	・宿題で復習に取り組んでいるが、子ども自身に復習をしている意識が薄い。宿題や自主学習のねらい、学習方法についての指導を行う。 ・メディアコントロールウィークだけでなく、家庭学習強調週間などを設定し、読書にも取り組めるようにする。

(4) 生活・学習に関する意識調査の結果

